



福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう130

リョウブ（冬芽）

分類： ツツジ目 リョウブ科

大きさ： 3～7mm

生育している環境

・ 林内の斜面や日当たりの良い場所

よく観察できる時期

・ 冬（12月～2月）

小鳥の森で見られる場所

・ シジユウカラの小径



冬芽を守る表面の皮がはがれて、笠をかぶっているように見える。

おおわだ みう さん（10才）が描いてくれました。

2月 いきもの森予報

春の便り

ますます寒さが厳しくなる2月。冷え込みはピークを迎えます。とは言え、少しずつですが日中の時間が長くなってきます。森の中の植物は暖かな春に向けて準備を始めています。

陽射しが春めき気温が緩むと、地面から新芽が次々と出始めます（発芽）。小さく固い種からどうやって瑞々しい葉を出すのでしょうか。

発芽には「温度」「水」「酸素」が必要です。種類によっては「光」の有無も重要な場合もあります。地面の「温度」が上がると種の皮に「水」が染み込みます。これが発芽のスイッチです。種の中にある植物の初期段階である「胚」まで水が到達すると、タネに蓄えられていた栄養が分解され葉や根の成長が始まります。栄養の分解に必要なエネルギーを作り出すためには「酸素」を使う呼吸が重要になるのです。

植物たちは種の状態です冬の乾燥や寒冷などの過酷な環境に耐え、発芽のタイミングを待っているのですね。皆さんも早春の森を歩いて芽吹きのパワーを感じてみてください。



↑カタクリの発芽

イカしたトサカの持ち主

1月の小鳥の森は、例年と比べ暖かな日が多くなりました。雪の降る日も少なく冬らしさの薄い園内でした。

いつもとは違う天候ではありましたが、冬鳥たちの活動は変わらず観察することができました。その中から今回はカシラダカを紹介いたします。

この冬鳥は15cmほどでスズメと同じくらいの大きさです。名前は頭（かしら）の羽毛が高（たか）く立って見えることから付けられました。山地や畑、河川敷などの開けた環境を好み、集団で植物の種子などを探して食べます。小鳥の森では、カワセミの小径の旧アワ畑の辺りで地面に降りてエサを探す姿が見られました。雪の少ない地面は、カシラダカにとって食事しやすいコンディションのようでした。



カシラダカ

スタッフだより

ウサギの盲腸（に棲む微生物）は働き者

「盲腸（正しくは虫垂炎）になって手術をしたの…」という話を聞いたことはありませんか？ヒトにとっては食べたものから栄養を吸収するために使わないため、手術で取ってしまうこともある盲腸（の先端にある虫垂）。しかしウサギにはとても大事な部分です。

ウサギの盲腸には微生物が棲んでいて、ウサギが食べた植物を分解して栄養素を作り出します。ところが盲腸にはその栄養素を体へ吸収する働きがあまりありません。そこでウサギは粘膜に包まれた「盲腸糞」と呼ばれる柔らかい糞をし、もう一度これを食べます。栄養たっぷりの盲腸糞を、今度は小腸でしっかり吸収し体を強くするのです。食べ物が少ない時、盲腸糞を食べることで1週間程度生きることができるとも。盲腸（に棲む微生物）…いい仕事してますね。

（スタッフ くろさわさちこ）

イベントのお知らせ

炭焼き体験
（花炭・焼き芋）

2月18日（土）に花炭と焼き芋をつくるイベントを行います。花炭とは、木の実やマツボックリなどを酸素の少ない状態で加熱し、そのままの形で炭化させたものです。見た目の美しさから「飾り炭」と呼ばれるだけでなく、消臭効果などもあります。また、寒い季節にぴったりの焼き芋はいかがでしょうか。ご希望の方はサツマイモにアルミホイルを巻いてご持参ください。（1人2本まで）

日時：2月18日（土）午前10時～12時

定員：15人

参加費：無料

申込方法：ネイチャーセンターまで
お問い合わせください

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページでカラー版をご覧になれます。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2023年2月号№441 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / NPO法人野鳥の会ふくしま 小鳥の森HP

